

この調査では、教科(国語、算数・数学、理科)に関する問題とともに、生活習慣などの学習状況についての設問も取り上げています。以下、紋別市の概要をお知らせしますので、よくできている習慣は継続し、改善したい習慣はお子さんと十分話し合って、家庭でのルール作りをしてみましょう。

■ 生活習慣や学習習慣に関する調査 (全国の割合を100として分析)

	○ (概ね良好)	△ (改善を要する)
小中 共通	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見を発表することは得意である ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う 家の人は、授業参観や運動会などの学校の行事に来る 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある 国語、理科の勉強は好きである 	<ul style="list-style-type: none"> ゲームをする時間やテレビ、DVD等の視聴時間、メールやインターネットをしている時間が長い 1日当たり1時間以上、家庭学習をする割合が少ない 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持ち、地域の行事に参加する、と答えた割合が少ない 各教科の調査問題の解答時間が十分だった、と答えた割合が少ない
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える 	<ul style="list-style-type: none"> 自分にはよいところがある、と答えた割合が少ない 就寝時刻がだいたい決まっている、と答えた割合が少ない 自分で計画を立てて勉強をしている、と答えた割合が少ない 算数の授業の内容がよく分かる、と答えた割合が少ない 読書が好きである、と答えた割合が少ない
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や目標を持っている 学校に行くのは楽しいと思う 家で、学校の宿題をしている 学級で協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある 「総合的な学習の時間」では、課題を立てて情報を整理し、調べたことを発表する学習活動に取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日食べている、と答えた割合が少ない 家で、学校の授業の予習をしている割合が少ない 新聞を読んだり、テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている、と答えた割合が少ない 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う、と答えた割合が多い。

紋別市の子どもたちは、毎日の朝食や就寝時刻にやや課題は見られますが、基本的な生活リズムは概ね整っています。困難なことへの挑戦や望ましい対人関係づくりへの内面感情、いじめ防止に対する認識は小中共に高いことが分かります。一方、ゲームの時間やテレビ・DVD等の視聴時間は全国平均を上回り、家庭の学習時間とのバランスにおいて大きな課題となっています。

紋別市教育委員会では、子どもの「生きる力」を育むため、「子ども夢UPプラン」を展開しています。本年度におきましても、各学校や家庭・地域との連携の下、基礎学力の向上はもとより、子どもたちの未来の夢を育んだり、豊かな国際感覚を磨いたりする事業を展開するなど、スピード感を持って取り組みます。

〈教育委員会としての主な取組〉

- ・「小学校学習サポーター」や「高校生ボランティア」等を活用して、基礎学力の向上に努めます。
- ・「子ども未来塾」を開催して、子どもたちの夢を紡ぎます。
- ・教職員研修を充実させるための支援をします。
- ・「生活習慣の手引き」を活用し、生活リズムの定着を図ります。
- ・「家庭教育講演会」を実施します。
- ・「子どもいじめ防止フォーラム」を実施します。
- ・「巡回図書館司書」を活用し、学校図書館の充実を図ります。
- ・ICT環境、外国語教育の充実を図ります。



図学務課学務係(24)2111内線416番

平成27年4月21日、全国学力・学習状況調査が小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象として実施されました。今年度は、例年実施されている国語、算数・数学に理科を加えた3教科と、家庭での生活・学習習慣を含めた「学習の状況」を調査分析の対象として行われました。

調査結果から見た紋別市の子どもの様子について、その概要をお知らせしますので、家庭・地域での教育や子育てにご活用いただければ幸いです。

(この調査で測定できるのは「学力」の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面のみを示すものです)

■ 教科に関する調査 (国語、算数・数学について、全国平均を基準として分析)

	領域ごとの傾向グラフ	分析から見える課題
小学校		<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字を正しく書くこと 話の内容に対する聞き方を工夫すること 表現の工夫を捉えることや、相互関係を捉えること 目的や意図に応じて整理して書くことや、文章と図を関連づけて自分の考え方を書くこと
		<p>算数</p> <ul style="list-style-type: none"> 小数、分数については、計算のきまりを十分理解したうえで正確に答えを求めること 図形の性質を用いて角の大きさを求めること グラフに表されている事柄を読み取ること 三角形の性質を基に記述すること
中学校		<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字を正しく書くこと、文法を理解すること 文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くこと 文章の構成を理解して読み分け、要旨をとらえること 文章を目的に応じて要約すること
		<p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を文字式で表し、連立方程式をつくること 図形の特徴についての的確に把握し、考察の結果を図形の性質を用いて説明すること 空間における図形の位置関係を理解すること 二つの数量の関数関係を数式的に的確に処理し、数学的な表現を用いて説明すること

<改善の方向性>

☑ 国語

- 小学校段階では、「読むこと」「書くこと」に重点を置き、基礎的・基本的事項の定着を徹底させるとともに、物語や説明文などの長文に親しむため、読書習慣を育てていくことが必要です。
- 中学校段階では、物事に対する自分の考えを明確にさせるとともに、文章の構成や展開を考えて書いたり、必要な情報を取り上げて適切に記述できるように指導することが大切です。

☑ 算数・数学

- 小学校段階では、基礎的・基本的な事項の定着を図るため、計算の結果を見積もったり、振り返って確かめたりする習慣を身に付けさせるとともに、学習のねらいをしっかりと持たせて活動させることが大切です。
- 中学校段階では、既習事項の活用や自主的な学習の指導に重点を置くとともに、数学的活動や言語活動を充実させ、数学的表現を用いて論理的に説明できるように指導することが必要です。

